



ドングリ



河芸社屋から望む稲穂



ミツバアケビ

クリ



食品の品質管理分析（残留農薬分析など）のご提案 一食の安心・安全に向けてー

近年、「食の安心・安全」に関する消費者の関心は強まる中、食品のトラブルとして「中国産冷凍食品（餃子）」・「事故米」などの農薬等の検出、「うなぎ」・「牛肉」などの産地偽装問題などが大きな問題となりました。これら消費者の商品に対する不信感の高まり、苦情等に対応するため「消費者行政を統一的、一元的に推進するための強い権限を持つ新組織」として、平成21年9月1日に「消費者庁」が発足し、今後の消費者行政はますます充実・強化されていくことが予想されます。

このような状況の中、特に消費者の食品に対する安全性（特に残留農薬）に関する関心は極めて高く、食品の生産者・販売者に対す



液体クロマトグラフ質量分析装置（LC/MS/MS）



ガスクロマトグラフ質量分析装置（GC/MS/MS）

る品質管理の徹底が求められています。当事業団では、最先端の分析技術及び装置を駆使し、同時にこれまでの公益法人としての業務として得られた幅広い知識・経験を生かした食品品質管理分析及びコンサルティング業務をご提案させていただきます。

なお、当事業団における食品中残留農薬等の分析方法は、ポジティブリスト制度など多様な社会ニーズに対応できるように、「**多成分一斉分析法**」及び「**個別法**」の2通りを用意しております。

詳細は、ホームページをご覧ください。

三重県環境保全事業団

検索

マネジメントシステム規格認証制度の信頼性の向上を目指して ～アクションプランの公表～

最近、不祥事を起こした組織がマネジメントシステムの認証を取得していることが少なくない現状において、認証制度に対する信頼性の低下、不信感が生じています。このような状況の中、平成20年7月29日に経済産業省から「マネジメントシステム規格認証制度の信頼性確保のためのガイドライン」が公表されました。

このガイドラインの公表を受け、財団法人日本適合性認定協会（JAB）、財団法人日本情報処理開発協会（JIPDEC）、日本マネジメントシステム認証機関協議会（JACB）は、ガイドラインの課題項目を具体化するため、マネジメントシステム信頼性ガイドライン対応委員会を発足させました。この委員会で、提起された課題に対する検討が重ねられてアクションプランが策定され、平成21年8月18日に公表されました。

公表されたアクションプランでは、6つの項目について、具体的な取り組み内容が定められています。主な概要は次のとおりです。

1. 認証に係る規律の確保

- ・故意の虚偽説明によって認証を取り消された組織に対して、他の認証機関を含めて1年間程度は認証受付を行わない。
- ・認証の取り消し情報、重大な法令違反に対する調査結果をウェブ公開する。
- ・認証範囲の適切性を確認する。

2. 審査員の質・向上と均質化

3. 認定・認証に係る情報公開

4. 有効性審査の徹底

5. 認証制度の積極的広報

6. 国際整合性とアクションプラン徹底策検討

ISCは、認証制度の普及と認証の社会経済活動に与える影響の大きさ等を踏まえて認証組織のエンドユーザーや全ての利害関係者に対して認証制度の信頼性を高めることを“基本方針”とし、認証業務を行っています。今後も更なる信頼性の向上を目指して、今回公表されたアクションプランを踏まえ、認証組織の皆様にも有効な審査を提供していきます。

お問い合わせ先 国際規格審査登録センター（ISC） tel 059-245-7514 fax 059-245-7524



溶融スラグの利用

廃棄物処理センターの溶融処理施設は、県内のごみ焼却施設から排出される焼却灰・飛灰（集じん灰）や産業廃棄物の燃えがら・ばいじ

ん等を約1,300℃で溶融処理することによりダイオキシン類の無害化等を行っています。その過程で年間3万トン



溶融スラグ保管状況



溶融スラグ

余りの溶融スラグが副生されます。

溶融処理の利点の一つは、副生された溶融スラグを有効利用できるこ

とですが、残念ながら、全国約200ヶ所の溶融施設における溶融スラグの有効利用は6割程度となっており、残りは埋立処分されています。

廃棄物処理センターの溶融スラグは、全てのJIS基準を満足し、埋め戻し材やコンクリート二次製品等の三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定リサイクル製品の原料として全量が有効に利用されています。

このように、廃棄物処理センターは、環境負荷の低減と循環型社会構築に大きく貢献しています。



溶融スラグを利用した建設用資材

お問い合わせ先 廃棄物管理部 溶融施設課（廃棄物処理センター） tel 059-328-8650 fax 059-328-8652



「ぼくら生き物調査隊 採って、調べて、形にしよう」を行いました

当事業団では、「三重の豊かな自然を未来に伝える」を基本コンセプトとして、生物多様性保全活動を今年度から開始しました。その啓発活動の一環として、8月29日に、MAPみえこどもの城(松阪市立野町)において「ぼくら生き物調査隊 採って、調べて、形にしよう」と題して、小学生とその保護者の方を対象に今村隆一さん(県立博物館)、山路武夫さん、中野環さんらを講師陣にお招きして、親子動植物同定会及び標本づくりの実習を行いました。当日は、およそ30組、80人と



多くの方々に参加していただきました。

子どもたちは、飼っていたカブトムシ、クワガタやこの日のために

家の近くで採集した蝶、とんぼ、植物を持ち寄り、講師の先生方の指導のもと、名前を調べたり標本作りをしました。おそらくはじめての体験である

う標本づくりに一生懸命で、出来上がった標本にとっても満足げでした。こうしたことを機会として生物多様性保全活動にも興味を持っていただきたいと思います。



お問い合わせ先 調査部 環境調査課 フリーアクセス 0120-0592-02 tel 059-245-7509 fax 059-245-7519



「素晴らしき自然とのふれあい」開催のご案内

生物多様性保全活動の一環として、次のとおり自然観察会及び講演会を行いますので皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

タイトル：素晴らしき自然とのふれあい(三重県自然環境保全地域-員弁大池)

日時：平成21年10月17日(土) 9:30から16:00

場所：員弁大池及びいなべ市コミュニティプラザ

内容：三重県自然環境保全地域のひとつである員弁大池の自然観察会

講演会：①三重県の生物多様性保全に向けた取り組み

②三重の自然を保全するために(予定)

定員：100名程度(先着順)

参加費：無料

服装：ハイキングが出来る動きやすい服装

申込み：下記までお電話で直接お申込み下さい。

その他：昼食は各自ご用意下さい。



員弁大池(三重県自然環境保全地域)

お問い合わせ先 調査部 環境調査課 フリーアクセス 0120-0592-02 tel 059-245-7509 fax 059-245-7519



平成21年8月
津市河芸町内で大矢職員撮影

恋ひつつも稲葉かき別け 家居れば
乏くもあらず 秋の夕風

（巻十の二三〇）

「あの人に恋焦がれながら、一面の稲葉をかき分けて、ここに小屋を構えて住んでいると、秋の夕風が絶えまなく吹いてきてて乏しいことはない。」と詠まれています。家人と別れて田庄に住んでいる人の作でしょうか、秋の夕風は残してきた人の方から吹く風のことだろうと思われまします。

農民の生活がよく現れている歌です。

イネは上代から日本人の主食として広く栽培されてきました。水稲、陸稲があり、いずれも品種改良が行われてたくさん品種が栽培されています。

葛山博次著「万葉集の植物」より

万葉人の 愛した草木

その十九



平成21年度 ISO 研修参加者募集!!

ISO14001/ISO9001 内部監査員養成セミナー〈2日間コース〉

対象 新しい内部監査員の養成、ISOコンサルタントを目指す方 等

内容 規格要求事項の解説、内部監査の説明、内部監査の場面を想定したケーススタディ（チェックリスト、内部監査報告書等の作成等）

開催月日

ISO14001 内部監査員養成セミナー

平成21年10月22日(木)・23日(金)	平成21年11月19日(木)・20日(金)
平成22年1月21日(木)・22日(金)	平成22年2月18日(木)・19日(金)

ISO9001 内部監査員養成セミナー

平成21年12月10日(木)・11日(金)	平成22年3月11日(木)・12日(金)
-----------------------	----------------------

開催場所 財団法人 三重県環境保全事業団
河芸社屋 2階大会議室

定員 30名

講習時間 9:00 ~ 17:00

参加費 42,000円/1名
(昼食付き、消費税含む)

お問い合わせ先 調査部環境調査課 ISO研修担当
tel 059-245-7503 fax 059-245-7519

■河芸社屋

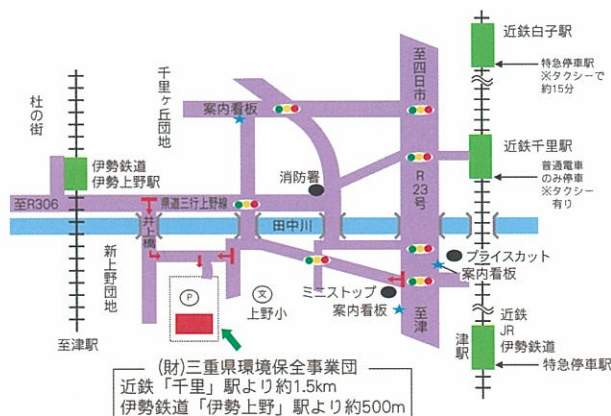
〒510-0304 三重県津市河芸町上野 3258 番地
tel 059-245-7505 (代表) fax 059-245-7515
フリーアクセス 0120-0592-03
ホームページ <http://www.mec.or.jp>

■廃棄物処理センター（溶融処理事業）

〒512-1102 四日市市小山町字西北野 3234-1
tel 059-328-8650 (代表) fax 059-328-8652

■三田最終処分場（埋立処分事業）

〒510-0841 四日市市三田町 9 番地の地先
tel 059-349-5016 (代表) fax 059-346-6500



● 事業団へのご意見・ご希望または「みえか」のご感想をお寄せ下さい。e-mail: mec@mec.or.jp